

① タイトル：西田幾多郎と日本国憲法

Kitaro Nishida and the Constitution of Japan

② 太田隆・文芸経済研究所

Takashi Ohta・Laboratory of Literature and Economics

③ 発表内容概要

日本国憲法前文はハッシーの起草と言われているが、ハッシーらは日本語が読めたとし、想定される近衛の前文草稿や、近衛の憲法改正要綱も読めたので、影響関係は否定できないであろう。しかし近衛やハッシーらによるその史料は提示する必要はある。日本国憲法の成立過程を検証するため、近衛文麿の資料がある陽明文庫（また国立国会図書館憲政資料室）を訪れて探査し、西田＝近衛書簡のありかを含めその結果を報告したい。しかし西田哲学会は哲学の探究をする会であり、歴史・歴史学の研究をする会とは私は認識していない。従って私は引き続き哲学的にもこのテーマを追求する。特に『善の研究』に焦点を当て、日本国憲法の哲学的探究をし、この内容の成立過程をできる限り追求することも無論だが、これが即非の論理・絶対矛盾的自己同一の考えによることを探究したい。それとともに近衛の憲法改正要綱に好意的だった昭和天皇の動向を調べる。また、西田幾多郎との関係で、柳田國男の他に、尾高朝雄・南原繁・宮沢俊義・丸山真男ら法・政治学の泰斗の思想と行動を精査し、後に江藤淳が検証した内容も含め、戦後思想の動向を調べるとともに、現実の戦後世界で吉田茂、佐藤栄作、大平正芳ら戦後民主主義を継承していった政治家たちの現実の問題意識も調べるが、それに留まらず江戸時代から明治以降にかけての憲政思考についても長期の流れを追いたい。それに対する異見申し立てである例えば三島由起夫の論説についても論議したい。だが、それら人目に立つテーマを言挙げすることよりも、より目立たない、憲法制定過程や憲法審議過程などで憲法の文脈に沿って、GHQ・議会・学者・近衛ら政治家の動向も精査し、憲法学といった枠組みでも確立した意見にしたい。出来得れば尾高家・金森(徳次郎)家の生存者にインタビューし、戦後の動向を検証したい。

④ 使用言語

日本語